

三田市SDGs未来都市計画

三田市

< 目次 >

1 全体計画

1.1 将来ビジョン

- (1) 地域の実態.....2
- (2) 2030年のあるべき姿.....5
- (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....7

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

- (1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....13
- (2) 情報発信.....20
- (3) 全体計画の普及展開性.....20

1.3 推進体制

- (1) 各種計画への反映.....22
- (2) 行政体内部の執行体制.....23
- (3) ステークホルダーとの連携.....24
- (4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等.....26

1.4 地方創生・地域活性化への貢献.....29

1. 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

<本市のあゆみ>

本市は、古来より周辺の豊かな農村地域から供給される米や材木等の集散地として栄えた流通・経済の中心地であった。昭和33年7月に兵庫県下20番目の市として三田市が誕生した。昭和40年代に北摂三田ニュータウン開発計画が発表され、昭和56年の「フラワータウン」のまちびらき以降、昭和62年から10年連続で人口増加率日本一となる等、急速にまちが成長を遂げ、平成12年度には11万人に到達した。その後、人口の伸びが横ばいから減少する局面に入ったことから、成長期から成熟期に向けた持続可能なまちづくりへの転換を進めている。



<地理的条件>

本市は、兵庫県の南東部、神戸市の市街地からは六甲山系を越えて北へ約 25km、大阪市より北西に約 35km に位置している。市域は、東西約 20km、南北約 18km、総面積 210.32 km²、周辺部には山地が多く、北部から東部にかけて標高 500～700m の諸峰が連立し、南東部には耕作地のある三田盆地が開けている。市の西部から南東部にかけて武庫川が貫流し、肥沃な農地を潤し、豊かな自然に恵まれている。

気候は、瀬戸内気候区に属するが、盆地状の地形から内陸的な特性が強く、最低気温がかなり低くなるという特徴を持つ。雨量は、年間降水量が 1,200～1,500 mm 程度と比較的少ない。三田盆地の特徴である季節による大きな寒暖差が、良質な農産物を育てている。

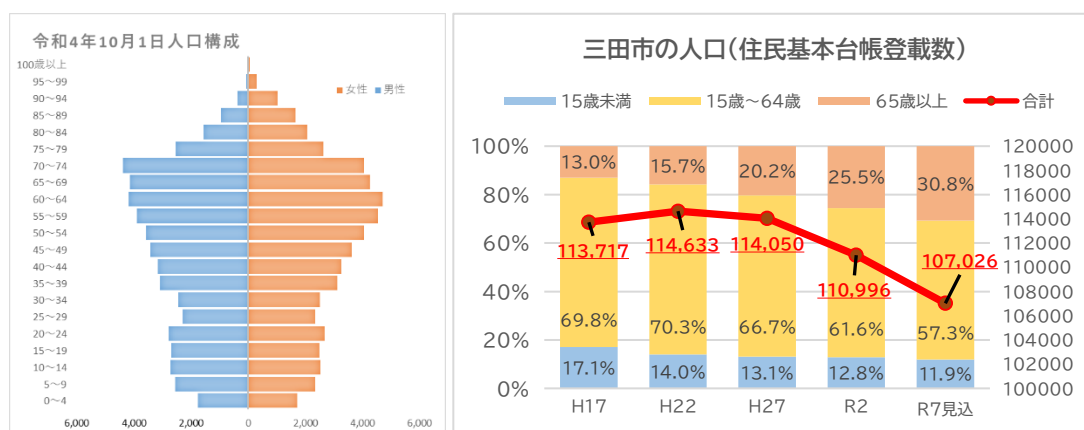
また、交通網では、神戸・大阪圏まで約40分でアクセスできるJR宝塚線・福知山線と、私鉄である神戸電鉄があり、道路網としては、市域中央部を横断する国道や県道とそれに接続する3つの高速道路網に近接する環境がある。

<人口動態>

～人口構成・若者の流出・出生数の低下による高齢化～

本市の令和 4 年 10 月 1 日時点の住民基本台帳登録人口は 108,577 人である。昭和 60 年から平成 7 年までにかけて人口急増期を迎え、平成 12 年に人口 11 万人に到達し、平成 23 年の住民基本台帳人口 115,061 人をピークに緩やかな減少傾向が続いている。

年齢階層別の人口構成では、ニュータウン地区に住む住民の影響を受け他の都市に比べて50歳代から60歳代が多く、今後急速な高齢化の進展が予測される。出生数は減少傾向にあり、急速な高齢化に伴い死亡数が増加しており、平成27年を境に出生数を死亡数が上回る自然減の状況が年々進んでいる。平成24年以降転出者数が転入者数を上回る社会減となっており、特に15歳から29歳までの年齢層の転出超過が大きく、大学等への進学や就職、転勤等が要因とみられる。



<産業構造>

～第1次産業～

本市の農業振興地域は、市域面積の20%を超え、阪神地域でも農業が盛んな地域のひとつであり、三田米、三田牛、母子茶、三田うどん、山の芋等、質の高い多様な農産物が生産されている。

令和3年経済センサス-活動調査 速報集計による農業の産業別就業者は0.7%

～第2次産業～

製造業を中心とした大規模工業団地が複数存在し、防災関連の製造業、輸送用機械器具製造業、電気機械器具製造業の出荷額は県内他市との比較においても上位にある。

令和3年経済センサス-活動調査 速報集計による製造業の産業別就業者は23.9%

～第3次産業～

商業については、市内外の大規模店舗の出店や後継者不足等により、既存の商店街等が衰退の傾向にある。事業所数は、商業(卸売・小売)が最も多く、約24%を占める。

令和3年経済センサス-活動調査 速報集計による

<地域資源>

歴史が息づく賑わいのある既成市街地と、里山をはじめとした自然豊かな農村地域、ニュータウン開発により都市基盤の整ったニュータウンと特色ある3つの地域で構成されている。

市内には県立・私立高等学校6校、私立の大学と短期大学が2校、研究機関「人と自然の博物館」等、多くの高等教育機関が存在し、「学びのまち三田」を形成しており、確かな学力の育成を支えている。

ニュータウン開発に向けて建設された青野ダムの人造湖「千丈寺湖」や市内を流れる武庫川は、豊かな里山が生み出す良質な水が注がれ、湖畔・川岸の美しい景観、水田、湿原等、農村地域の豊かな恵みと風景をもたらすとともに、人々の暮らしを支えている。

ニュータウン開発により、道路や公園等の生活に密着したインフラが充実した良質で快適な住環境が持続的に維持されている。里山のもたらす自然が隣接する住環境は本市の特徴であり、誇りとしてまちの魅力にあげる市民も多い。

また、人口急増を経験した本市には豊かな経験と知識を持つ多様な人材が多く、さらに志の高い若者、農業や産業、まちの歴史等、暮らしの技術を今に伝える人々がまちに関わっている。

近年の健康志向、アウトドア志向の高まりにより、身近に行ける自然として本市への関心が高まっている。

②今後取り組む課題

住み続けられるまちづくり

急速な高齢者の増加や若者の転出超過による人口構造の偏りにより、将来的に地域活力が低下する懸念があることから、移住・定住、少子化対策等人口減少に関する取り組みを戦略的に実施し、2065年のまちづくり人口(※)8.4万人の確保に取り組む。

※まちづくり人口 まちの活力を維持する上で望ましい人口規模を表すものとして、三田市が独自に名付けたもの

1 「選ばれるまち」になる

本市が移住先の選択肢にあげられ、選ばれるまちになる取り組みをベースに、本市への移住の最終決定を後押しする取り組みを行う。

2 「住み続けたいまち」になる

本市への愛着を生み、高める取り組みをベースに、転出傾向が高い若者を対象にした「まち」や「さと」とのつながりづくりを進める取り組みを行う。

3 「活力があふれるまち」になる

「まち」と「さと」に関わる「ひと」が健康で元気に活動できるよう健康づくりと、活動の場の創出に取り組む。また、本市の立地を活かした交流人口を増やす取り組みを行う。

4 「子どもを産み、育てやすいまち」になる

「子どもがいる暮らし」を望む人の思いを支えるための取り組みを進める。

(2) 2030 年のあるべき姿

“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”

本市は、計画期間を令和4年度から令和13年度までとする第5次三田市総合計画において、“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”を10年間のまちづくりの基本目標に掲げている。

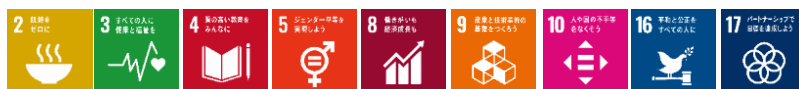
本市の魅力は、「ひと」、「まち」、「さと」である。「ひと」は本市に関わる多様な人財、「まち」は良質な住宅や都市機能、まちの歴史、「さと」は里山をはじめとした生活に密接に関わる自然や生活の匂いをそれぞれイメージしている。これまでの本市のまちづくりは、これら3つの魅力をそれぞれに磨きあげることに注力してきたが、これからの10年に向けては、これら3つの魅力をそれぞれ掛け合わせるとともに、一枚の布のように織りなすことで生まれる相乗効果を、次の時代を創るチカラに、市民一人ひとりがいつまでも住み続けられるまちづくりを進めるため、“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”をまちづくりの基本目標と定めた。

本総合計画は、「共に創る」をコンセプトに策定を進め、まちづくりの基本目標については、市民、小学生、中学生、高校生を対象としたアンケートのほか、若手事業者、学生、市若手職員からなる総合計画策定パートナーズがファシリテートする市民参加ワークショップにより、10年後の三田をどんなまちにしたいかという思いを集め、バックキャストिंगの手法を用いて定めた。この基本目標をもとに、上記の総合計画策定パートナーズの企画・運営により、住民投票を呼びかけ、10年後の三田のまちのイメージコピーとして「魅力がたくさんだ、三田」を決定するなど、まち全体で 10 年後のまちのあるべき姿を共有し、創りあげたものである。

このことから、本提案における 2030 年のあるべき姿は、総合計画において2031年のまちの基本目標としている“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”とする。

2030年のあるべき姿の達成に向けて取り組む、6つの施策体系が目指す具体的なまちの姿は次のとおりである。

◆「ひと」のチカラを育み、活きるまち～ひとづくり～



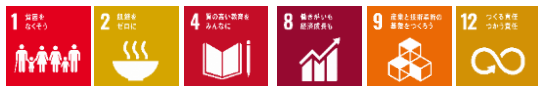
共生社会の実現に向けて市民が高い関心を持ち、子どもから高齢者まで誰もが健やかで心豊かに生活し、安心して過ごせる環境が整い、自分らしく学び活動し、健康でいきいきと生涯現役で過ごせるまちが実現している。

◆**支えあい、安全安心に暮らせるまち～やすらぎづくり～**



社会的孤立に対する支えあいや安全安心の確保等を通じて、日々の暮らしにやすらぎを感じるまちが実現している。

◆**“三田らしい”活力と交流のあるまち～にぎわいづくり～**



商工業や農業、観光等の振興を通じて、三田で活躍し、交流する人を増やし、新たな三田の魅力づくりを進めるため、三田の魅力を活かした活力と交流を生むにぎわいのあるまちが実現している。

◆**「まち」の基盤が整い、暮らしやすいまち～快適づくり～**



地域特性に応じた土地利用や都市基盤の整備と、自然環境との調和を前提とした都市機能の確保により、住みやすいまちをつくるため、快適さが感じられるまちが実現している。

◆**「さと」の恵みを守り、活かすまち～うるおいづくり～**





水と緑豊かな美しい生活環境を守るとともに、地球環境にやさしくうるおいのあるまちが実現している。

◆**まちづくりの進め方**



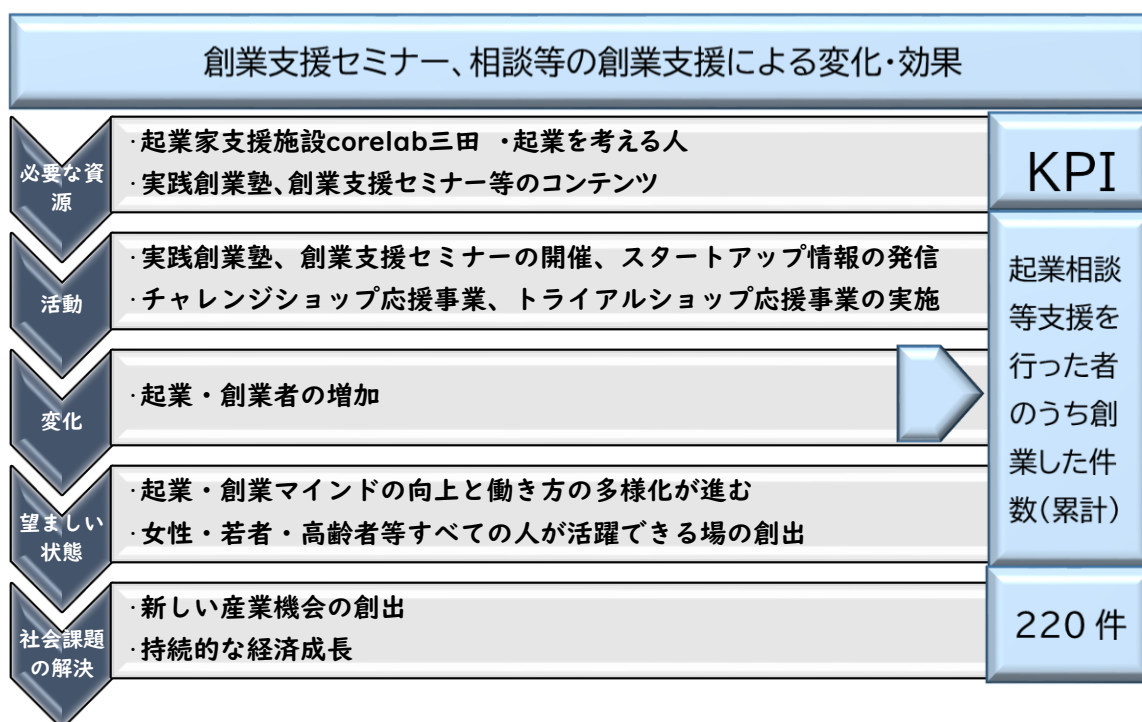
まちづくりの基本目標に思いを込めた「掛け算による相乗効果」によって生まれる新たな価値観や活力があふれるまちづくりが進んでいる。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット
 (経済) 新たな雇用と魅力ある“しごと”があるまちの実現

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 9,2	指標: 起業相談等支援を行った者のうち創業した件数(累計)
	現在(2022年3月): 90件 2030年: 220件
 2,4	指標: 認定新規就農者数(累計)
	現在(2022年3月): 15経営体 2030年: 25経営体

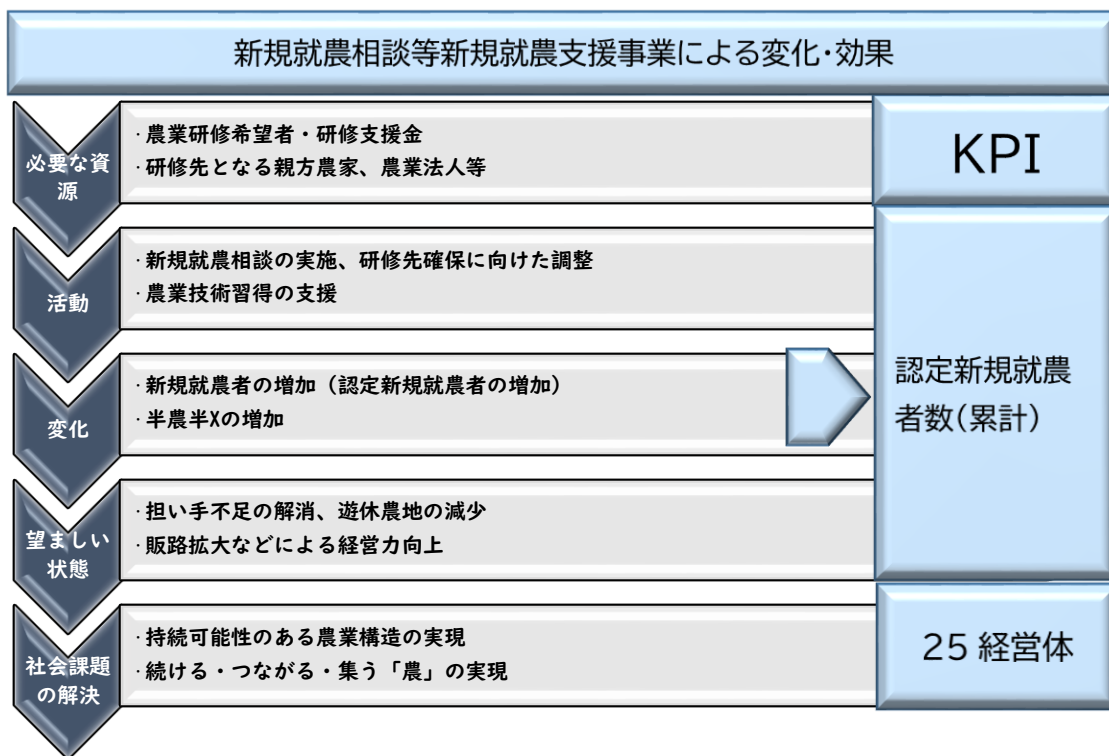
◇魅力ある“しごと”の創出◇

恵まれた自然環境と整備された都市基盤、三田で生活する多様な人材、高等教育機関、地域に根差した中小企業、三田に進出した立地企業等、三田が誇る財産を原動力に、人材育成と活躍支援、新たなビジネスモデルの創出による「ひと」「もの」「まち」の好循環に取り組む。


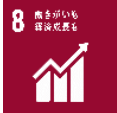


◇農を担う・農を楽しむ暮らし◇

魅力ある仕事としての「農」の未来を創るため、農産物の価値の向上、農業を続けられる仕組みの強化、生産者の経営を支え、生産基盤を整える環境づくり、農を楽しむ暮らしの普及に取り組み、三田の農の将来像「農を続ける、農でつながる、農で集う」を目指す。



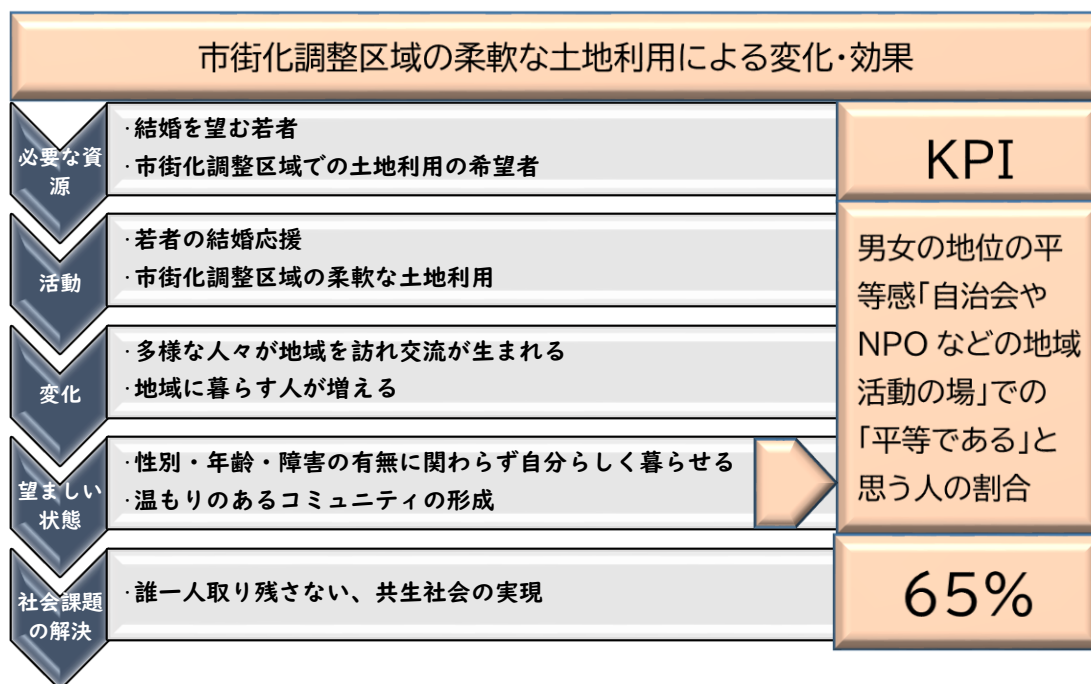
(社会) いつまでも住み続けられるコミュニティの実現

ゴール、ターゲット番号	KPI	
 5,4 5,5	指標: 男女の地位の平等感「自治会やNPO等の地域活動の場での「平等である」と思う人の割合」	現在(2022年3月): 36.8%
		2030年: 65.0%
 8,1 8,5	指標: 未来を担う若者指数(15~19歳人口の10年後残存率)	現在(2022年3月): 67%
		2030年: 75%

◇新たな人の流れによるコミュニティの活性化◇

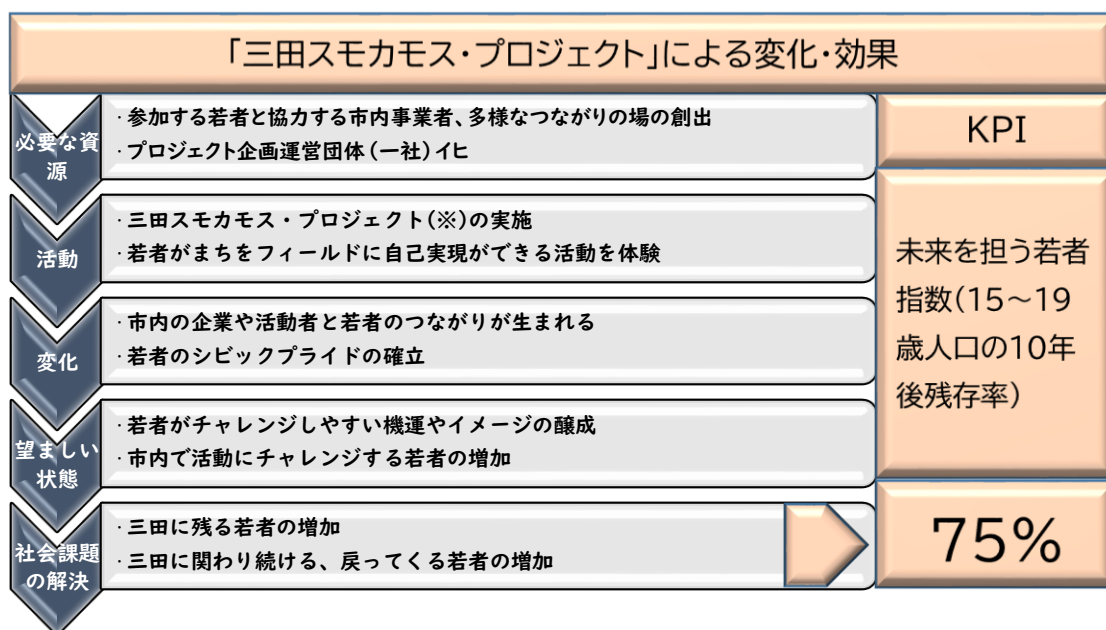
本市を構成する、既成市街地、ニュータウン地域、農村地域の3つの特徴あるコミュニティの活性化に向け、駅前整備事業やオールドニュータウン再生の取り組み、市街化調整区域における開発許可制度の弾力的な運用による柔軟な土地利用等による、持続可能なまちづくりを進める。

駅周辺やニュータウン、農村における新たな魅力や賑わいづくりによる人の流れの創出と、社会とつながる場・機会を創出するソフト面の取り組みにより地域コミュニティの活性化を図り、住み続けられるまちを目指す。



◇三田ですっと暮らそうよ◇

人のつながり・結びつきをつくり若者の市への愛着を高める取り組みとして、若者が多様な体験を通じ本市で果たしたい役割を見つける機会を創出する。若者と地域資源とのつながりを促進し、若者が自ら望む役割を果たせるよう支援する。まちづくりへの関わりや魅力あふれる人との関わりにより、定住を促進する。





※三田スモカモス・プロジェクト

より良い未来に向けて、地域や自分を醸成する「醸す(カモス)」と、そんないきいきと活躍できるまちに「住もうよ(スモ)」を併せた名称。市内にいる学生や若者が「三田に残る」「関わり続ける」、そして離れてもまた「戻ってくる」という選択肢を持つために、まちでの経験を増やす、地域活躍人材育成プログラム。

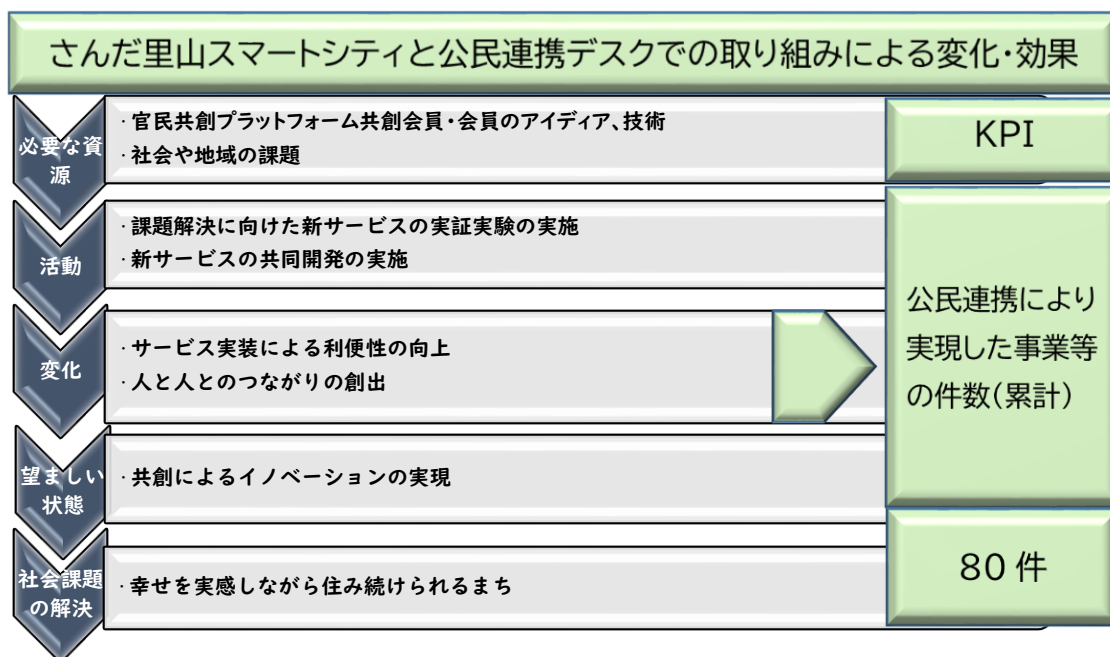
市内企業での活動体験などを通じ、三田でできることを発見し、自分の在り方、生き方を深めるプロジェクト。【活動体験などで連携する団体等詳細は後掲】

(環境) 自然が隣接する良質な住環境を守り抜くゼロカーボンシティへの挑戦

ゴール、ターゲット番号	KPI
 11,2、11,a	指標：公民連携により実現した事業等の件数(累計) 現在(2022年3月)：4件 2030年：80件
 13,3	指標：公共施設への太陽光発電の導入率 現在(2022年3月)：41.3% 2030年：50%

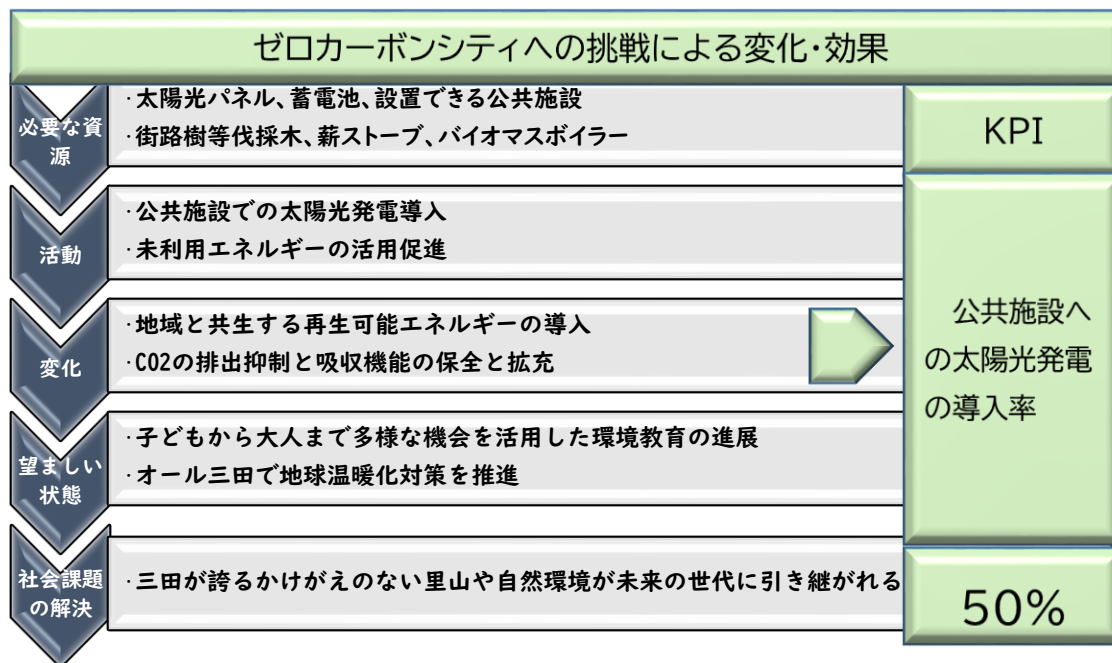
◇デジタルの活用で自然が隣接する良質な住環境を守り抜く◇

地域経済の活性化、まちの賑わい創出、豊かな自然や里山、田園風景、農村を守る取り組みや、その担い手の確保等の社会課題への対応として、デジタルを活用しながら、市民中心で持続可能な課題解決を行うことで「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指す。



◇ゼロカーボンシティへの挑戦◇

市は2021年6月に、かけがえのない財産である豊かな里山を未来へ引き継いでいけるよう「2050年ゼロカーボンシティへの挑戦」を表明した。市民、団体、市等あらゆる主体が連携、協働してオール三田で未来を紡ぐ～ゼロカーボンシティの実現～を目指す。「三田市でCO2の排出をみんなと一緒に0にしよう」を基本理念として「さんだ脱炭素カウントダウン作戦(3→2→1→0)」を展開する。




1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

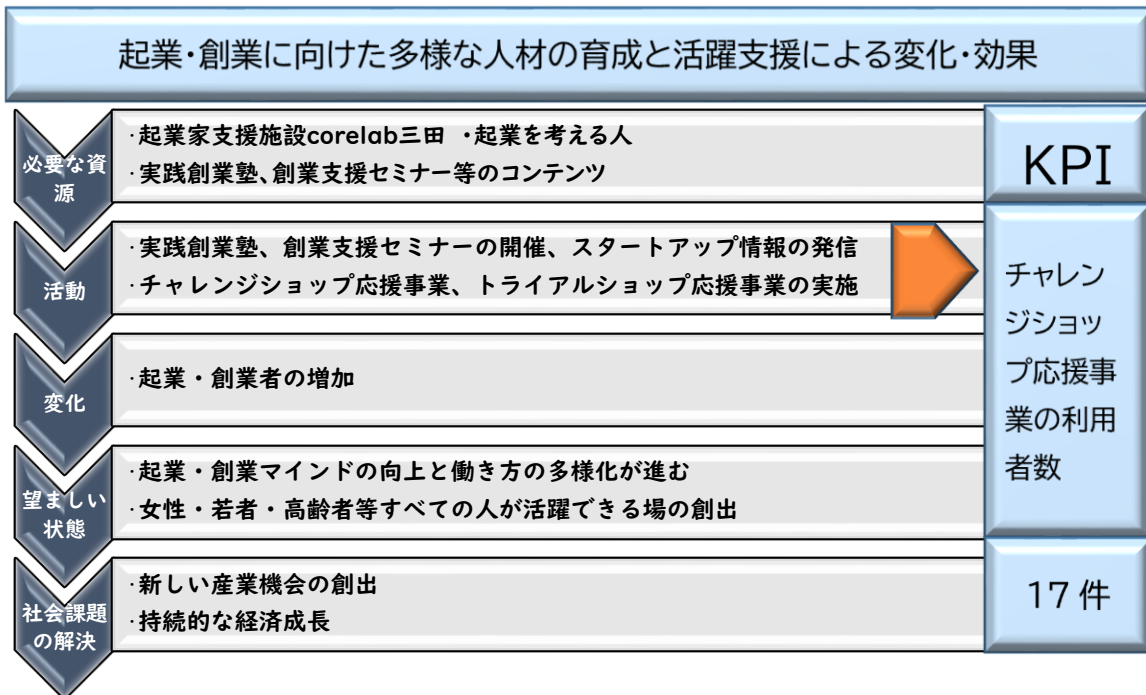
【経済】

①起業・創業に向けた多様な人材の育成と活躍支援


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9,2	指標: チャレンジショップ応援事業の利用者数(累計)	
	現在(2022年3月): 2件	2026年: 17件

「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」の3本柱を総合的に推進し、自律的な経済発展のもと創造性のあるまちの形成を目指す。

- ◆三田市商工会が運営する起業家支援施設「corelab(コアラボ)三田」と連携した創業支援事業
- ◆ニューメキシコ大学イノベーションアカデミーの講師による起業家育成プログラム受講支援
- ◆低リスクで最初の一步を踏み出すための「お試し店舗」を提供するトライアルショップ応援事業と起業家等の事務所家賃を一定期間補助するチャレンジショップ応援事業

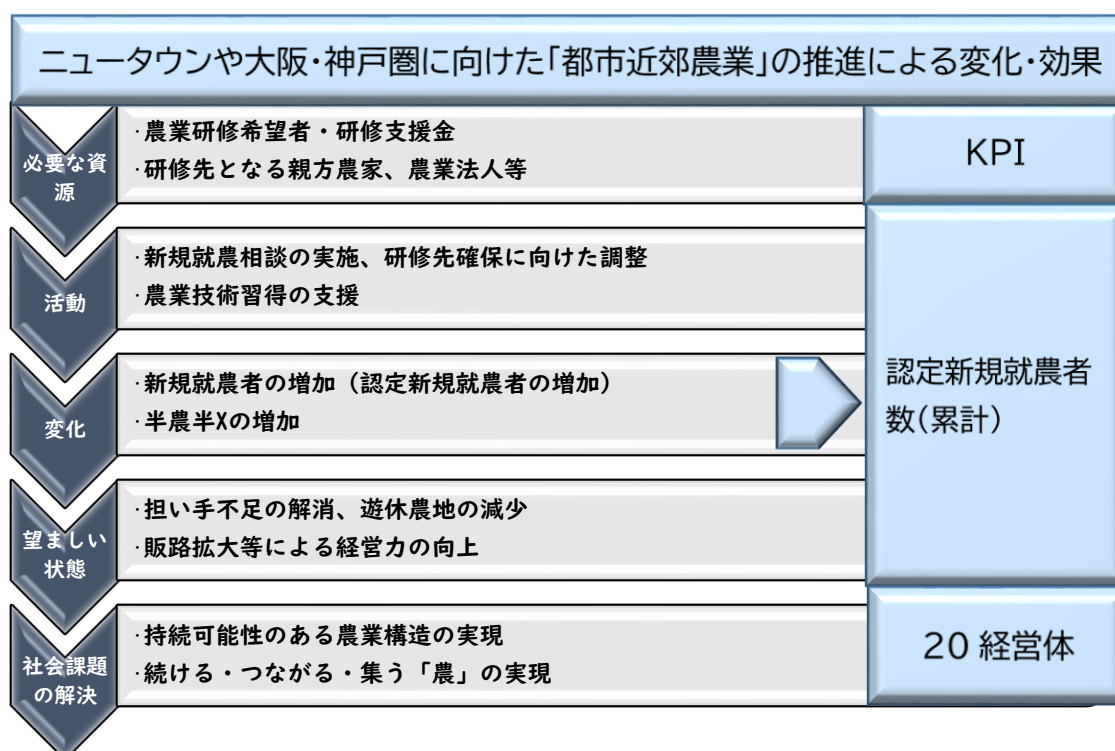


② ニュータウンや大阪・神戸圏に向けた「都市近郊農業」の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 2,4	指標：認定新規就農者数【再掲】	
	現在(2022年3月): 15 経営体	2026年: 20 経営体

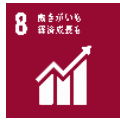
新鮮で安全・安心な農畜産物が生産・出荷され、市内に大きな消費地を有することや大阪・神戸まで約40分といった本市の都市近郊農業の魅力を活かし、多様な農業人材を確保し、持続的に発展する農業を推進する。

- ◆多様な農業者の育成を図るため、市内での就農を目指す人に対して、県内研修機関が実施する農業研修の受講料を支援する**農業研修受講料助成事業**
- ◆農業経営が確立するまでの間、初期投資に対して支援する**認定新規就農者営農開始応援事業**
- ◆就農希望者を受け入れ、技術指導を行う農業者を支援する**親方農家支援事業**
- ◆認定新規就農者や、半農半Xなど多様な農業人材の確保に向けた**新規就農相談**
- ◆神姫バス(株)や兵庫六甲農業協同組合と連携した農村地域からの野菜等の出荷を支援する**乗合バスの貨客混載事業**



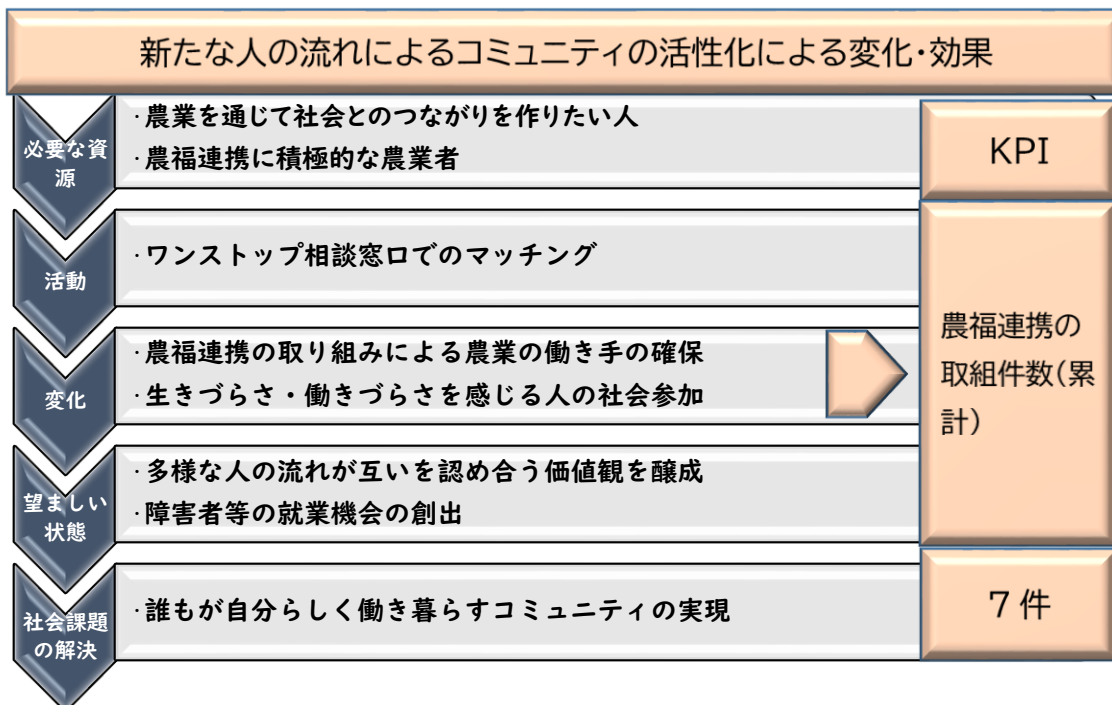
【社会】

③みんなが生み出す「新たな人の流れ」によるコミュニティの活性化


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8,5	指標：農福連携の取組件数(累計)	
	現在(2022年3月): 5件	2026年: 7件

農村地域をはじめ市内への人の流れをつくることにより、コミュニケーションから生まれる新たな価値観への気づき、受容、地域の魅力の(再)発見等によりコミュニティの活性化を促す。

- ◆(一社)イヒと連携した若者の定住を促進し、まちの活力を創出する三田スモカモス・プロジェクトの実施【再掲】
- ◆地域で行われているイベントや催し、地域の魅力・情報をタイムリーにわかりやすく共有・発信することで地域イベントへの参加を促し愛着を高める。人・モノ・情報のつながりを創り出す地域情報共有アプリ「ためマップさんだ」運用事業
- ◆障害者や生きづらさを抱える人たちが農業を通じて社会とつながり、様々な形で農業を始める、関わる人を増やし、農業・農村の活性化を促す農福連携事業



④子や孫も「ずっと暮らせる」農村地域の創造

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5,4	指標: 移住相談窓口相談件数(累計)	
	現在(2022年3月): 96件	2026年: 500件

◆農村地域の活力・コミュニティの維持、移住・定住を促進する市街化調整区域における開発許可制度の弾力的運用

◆「三田でずっと暮らそうよプロジェクト」で結婚・住み替え・移住希望者を応援

◇結婚新生活支援事業

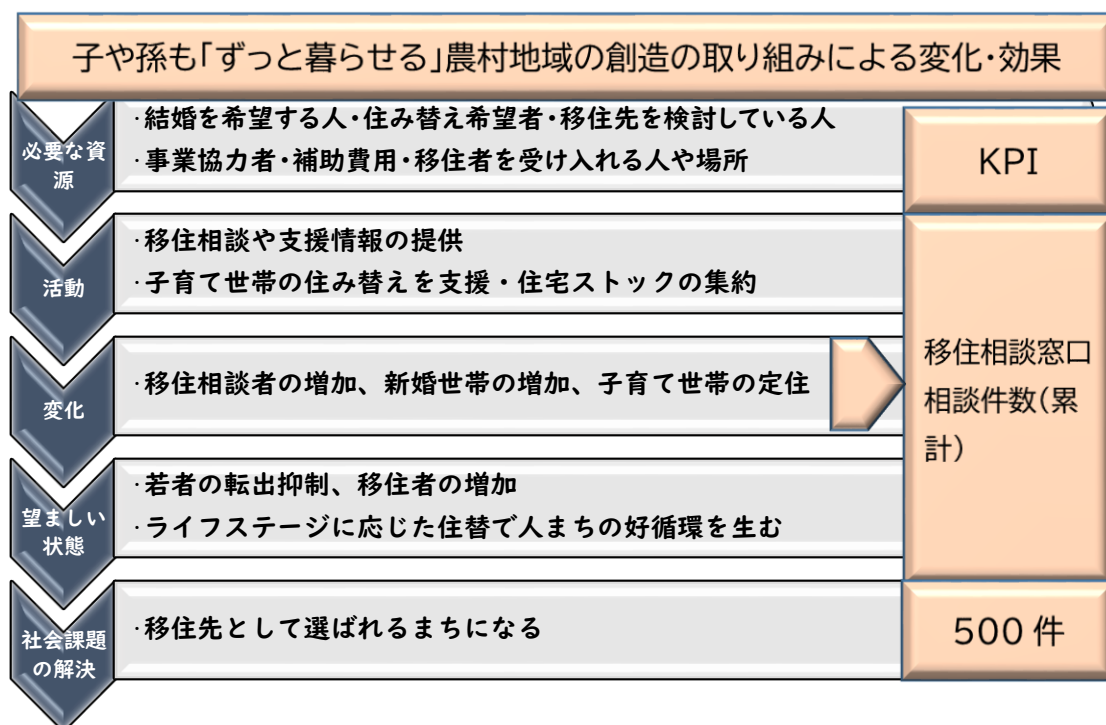
市内で新生活を始める新婚世帯に対して初期費用を支援し、結婚を希望する若者を後押しする。

◇住み替え支援補助事業

若者・子育て世帯の定住促進のため子育てしやすい住宅への住み替えを応援


◇移住相談事業

大都市での移住相談会やPR、オンライン移住ツアーの実施



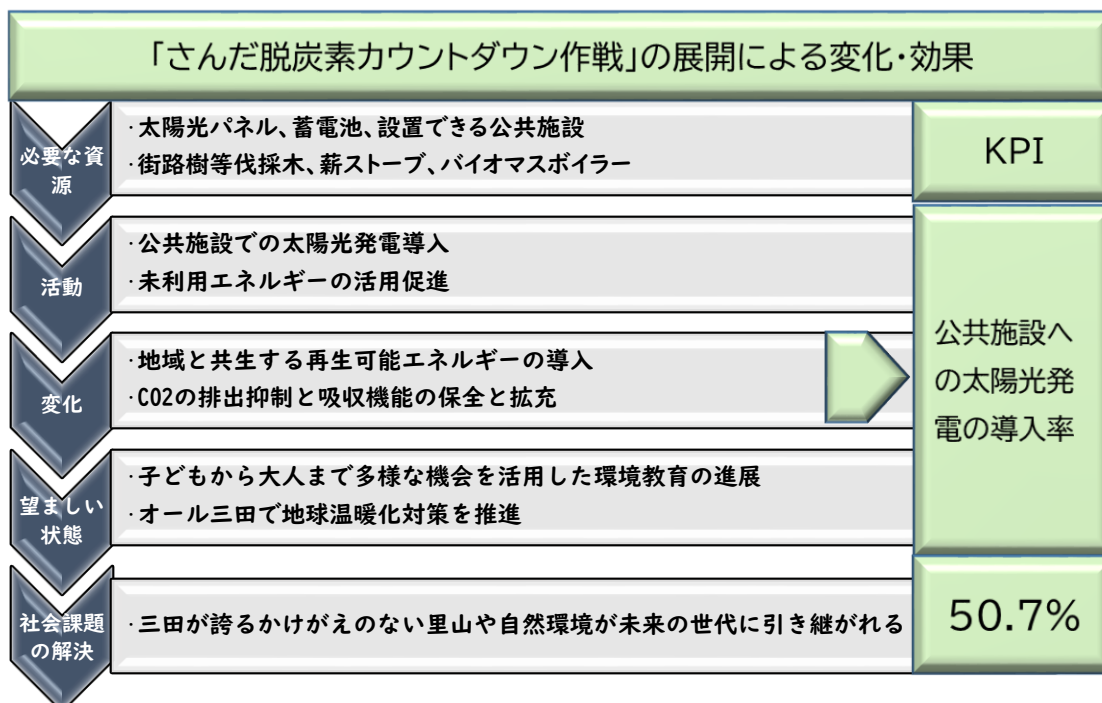
【環境】

⑤「さんだ脱炭素カウントダウン作戦」の展開


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 13,3	指標：公共施設への太陽光発電の導入率【再掲】	
	現在(2022年3月): 41.3%	2026年: 50.7%

「オール三田で未来を紡ぐ ゼロカーボンシティの実現」を目指すべき将来像とし、その実現を目指す。将来像実現に向けての基本理念として「三田市で CO2の排出を みんなと一緒に 0にしよう」を掲げ、「さんだ脱炭素カウントダウン作戦」を展開する

- ◆公共施設の太陽光発電設備の推進
- ◆環境配慮行動にインセンティブを付与する三田版グリーンライフポイントに向けたアプリ実証実験
- ◆バイオマスプラスチック指定ごみ袋の導入による CO2 排出抑制と住民意識の向上
- ◆木の駅プロジェクトで、里山整備等により発生する伐採木を薪や木質バイオマス燃料等として資源循環する仕組みづくりを推進



⑥さんだ里山スマートシティの取り組みによる「まちの変革」

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 17,7	指標：70歳以上のスマートフォン・タブレット利用率	
	現在(2022年3月): 75.4%	2026年: 80%

様々な本市の課題について、ICT・IoT・AI等のデジタル技術の戦略的な活用とデータ利活用により、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指す。

◆さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォームの運営

企業や団体、大学等が会員として参加するプラットフォームで、ICT・IoT・AI等のデジタル技術の戦略的な活用とデータ利活用による会員間の共創によるサービス実装に向けた取り組みを推進し、スマートシティの実現につなげる。

◆行政サービスのデジタル化(DX)の推進

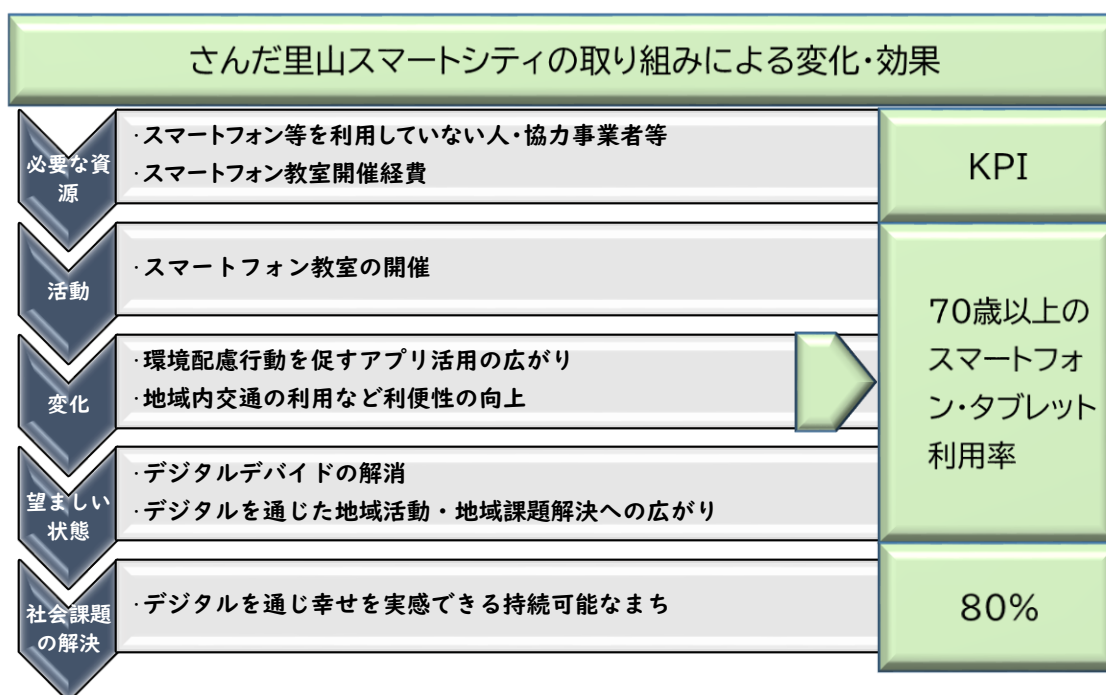
デジタル技術を効果的に活用し、窓口サービス向上と業務効率向上に資するような行政サービスを提供する。

◆デジタルデバйдへの対応

スマートフォンの使用に不安のある人へのデジタル活用サポート体制の構築や公共無線LANの整備など、各種デジタルデバйдへの対応を進める。

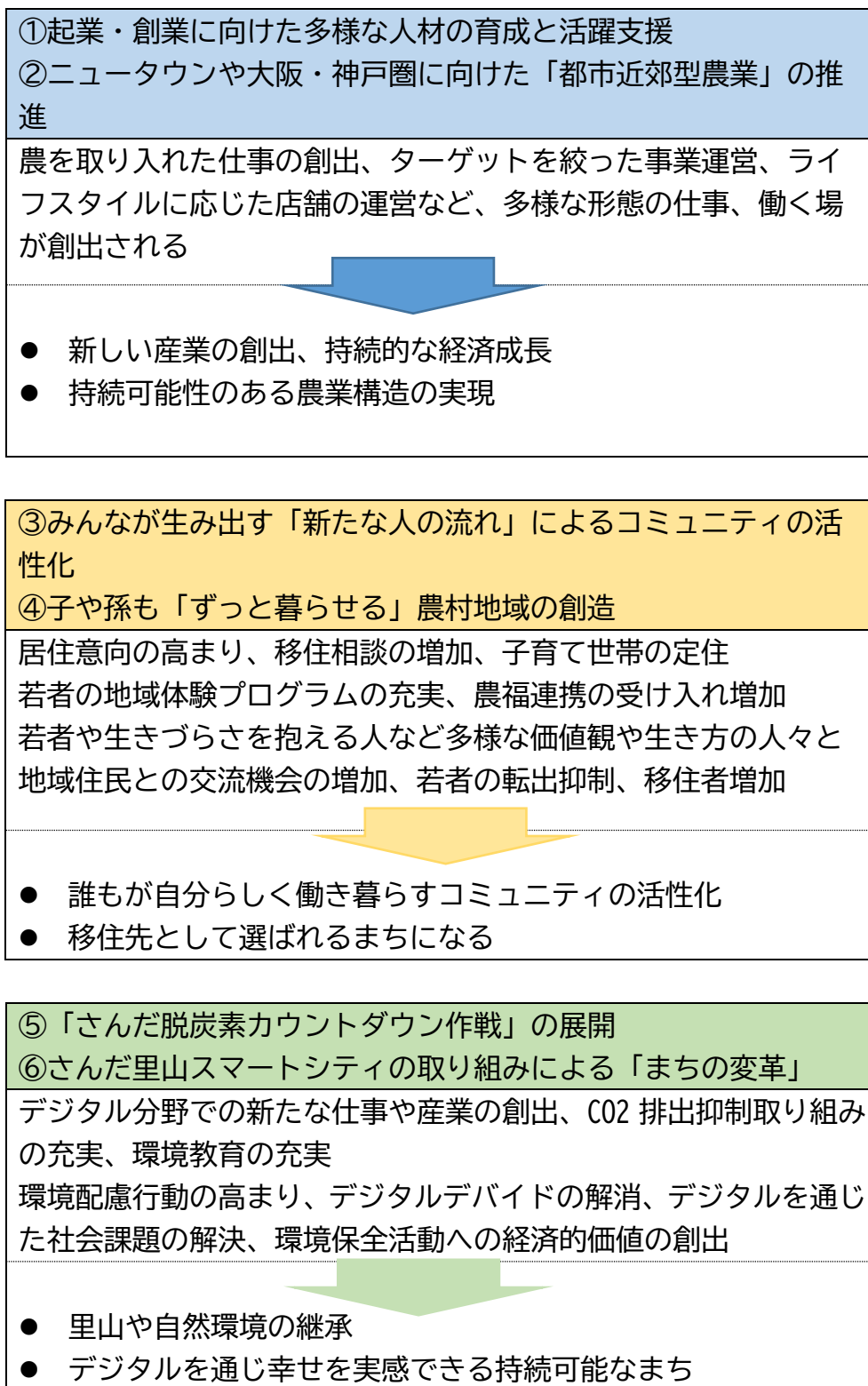
◆次世代につながる新たな移動サービスの実現

地域の交通課題の解決のため、新しいしくみの活用を推進し、持続可能な利用しやすい公共交通サービスの提供を図る。



⑦各取り組みによる相乗効果

6つの取り組みによる変化や望ましい状態は、相乗効果を発揮し他の取り組みの推進力となることから、バランスよく取り組みを進め自治体 SDGs を推進する。



(2)情報発信

(域内向け)

- 広報誌、コミュニティラジオを活用した SDGs の普及啓発と共に、SDGs に貢献する取り組みを行っている活動者を紹介している。
- 企業・団体と連携した市民向け参加型普及啓発事業の開催・情報発信
「わたしの SDGs 宣言キャンペーン」の実施【詳細は(4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等に掲載】、小学生、中学生、高校生と世代に応じた啓発活動の実施、「SDGs フェスティバル」の開催
- 市ホームページでの SDGs に関する普及啓発
- 公式LINEアカウントからの情報発信
- 3年制の高齢者大学「さんだ生涯学習カレッジ」での専門学習コースにおいて SDGs に特化したカリキュラムの実施
- 市職員による市民グループ等への「市政出前講座」による普及啓発

(域外向け(国内))

- ふるさと納税協力者等へ三田市が目指す 2030 年のあるべき姿の発信
- 連携協定締結団体との取り組みを共同でプレスリリース
- 東京兵庫県人会情報誌等を活用した首都圏への発信
- 「東京でも三田会」の開催による関係人口化の促進
- 大阪での出張移住相談会等での情報発信

(海外向け)

- SNSや関係団体を通じた情報発信
- 海外を視野に入れ、情報発信に取り組む市内企業等の活動を応援する。

(3)全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

- ・ 3つの異なる地域が共存する地域特性から、市街地の活力低下の課題、高齢化によるオールドニュータウンの課題、農業の担い手不足の課題等、多くの地方都市と共通した課題がある。これらの課題解決にあたって、官民共創によるさんだ里山スマートシティやゼロカーボンシティなど、未来を見据えたまちづくりを進める本市の取り組みは、高い普及展開性があると考えられる。
- ・ 本市は、官民共創によるさんだ里山スマートシティの取り組みや、新モビリティ実証実験など、民間事業者等との実証実験や実装に向けた取り組みを数多く行っており、こういった場面で共創している民間事業者等が、本市での成功事例を他の同様な課題を抱える自治体に SDGs に資する取り組みとして普及展開することが大きく期待できる。
- ・ また、本市が「まち(都市)」と「さと(農村)」が隣接する魅力を活かした官民共創による「アウトドア交流都市」を目指す取り組みは、民間事業者のほか、他の地域と広く連携す

ることで相乗効果を生み、広域的な賑わいの創出が期待できるものであり、地域資源等は異なっても、他の自治体において横展開を図ることができるものである。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 第5次三田市総合計画【令和4(2022)年度～令和13(2031)年度】

令和4年度にスタートした第5次三田市総合計画では、“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”を今後10年間のまちづくりの基本目標として掲げ、多様な人財「ひと」、良質な住宅・都市機能・歴史「まち」、里山を始め生活に密接した自然「さと」の3つの魅力を掛け合わせ織りなすことで生まれる相乗効果を力に、いつまでも住み続けられるまちづくりを進めている。

SDGsの理念に通ずる次の3つの視点でまちづくりを進めることとし、総合計画とSDGsは一体的に推進する。

- ①多様性と調和による誰ひとり取り残さないまちづくり【共生】
- ②次世代につなぐ持続可能なまちづくり【再生】
- ③パートナーシップで取り組む未来のまちづくり【共創】

まちづくりの基本目標達成のために取り組む各施策には、関連するSDGsのゴールを明示し、10年後に目指したい三田の状況を実現するための「市民」「事業者・団体」「市」の取り組みを記載し、具体的な行動を促している。

また、総合計画と一体策定した「第2期三田版総合戦略」についてもSDGsの理念のもと進めている。

2. 分野別計画

総合計画の理念、SDGsの理念を踏まえて各分野別計画の見直し策定を行っており、各計画書内に施策とSDGsのゴールの関連図やロゴマークの掲載、SDGsのゴールを念頭においた数値目標を設定している。

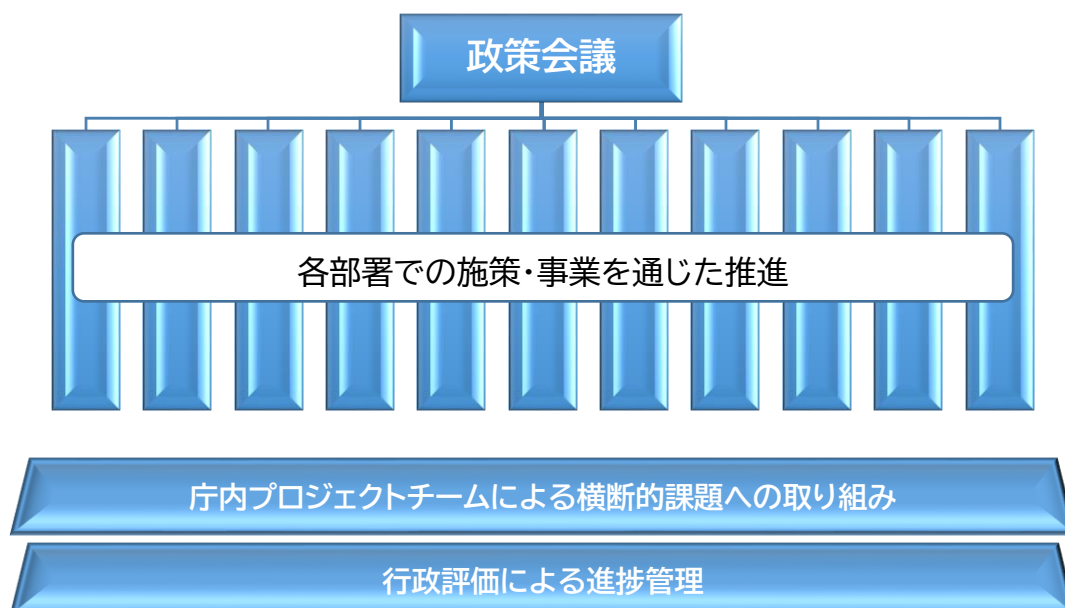
- 三田市里山の保全と活用に関する行動計画【令和2年度～令和11年度】
- 第8期三田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画【令和3年度～令和5年度】
- 三田市観光ビジョン【令和3年度～令和8年度】
- 三田市新ごみ処理施設整備基本計画【令和3年度～令和10年度を目標】
- 第3期三田市教育振興基本計画【令和4年度～令和8年度】
- 三田市文化芸術ビジョン【令和4年度～令和13年度】
- 第3次三田市スポーツ推進基本計画【令和5年度～令和9年度】
- 第5次三田市農業基本計画【令和4年度～令和13年度】
- 第4次三田市環境基本計画【令和5年度～令和9年度】

その他、現在改訂作業中の計画を含め各分野別計画においてもSDGsの理念を踏まえ

策定している。

(2) 行政体内部の執行体制

SDGs に関する取り組みは、第 5 次総合計画に基づく各施策や事務事業を通じて推進している。



- 合議制による最高意思決定機関である**政策会議**において、SDGs の理念を含めた各事業・施策等の決定
構成：市長・副市長・教育長・幹部職員等
- 部局を横断して取り組む行政課題には**庁内プロジェクトチーム**を組織して対応
- 総合計画の進捗を行政評価で検証
内部評価に加え、有識者、団体・事業者、市民で構成する**行政評価委員会**(附属機関)による外部評価を実施

(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

市内には多様な人財が、個人や団体、企業活動を通して地域の課題解決、子育て支援、地域福祉、人材育成等に取り組んでおり、いずれの活動も SDGs に貢献している。市では、多くの活動者との連携により各施策を実施するとともに、活動者同士のネットワーク形成にも取り組んでいる。

【公民連携による SDGs の推進】

■企業セミナーの開催等

連携協定を締結している企業と連携し、SDGsの普及啓発を図る企業セミナー等を開催。

【地域づくり・人材育成・子育て支援】

■協働事業提案制度「ええやん！ やってみよっ!」

地域社会の課題解決につながる公益的事業を支援。事業を提案するグループ・団体が多様な連携と協働を意識的に図ることにより市民のまちづくりへの参加機会の創出と多様性から創造される共創のまちづくりを推進する。

連携先：市民活動団体・地域団体等

■こうみん未来塾

子どもたちが本物に触れる機会を持てる「こうみんプログラム」を通して、科学技術に親しみを感じる子、グローバルに活躍する気概を持つ子、チャレンジ精神旺盛な子の育成をめざす事業。大学や博物館等、教育・研究機関や三田市にゆかりのある企業、陶芸家や歴史家、プログラマー等の NPO や専門家、これまでの知識や技術を子どもたちに伝える地域人材等、連携する 40 以上の団体や個人が 100 を超えるこうみんプログラムを提供している。連携しているそれぞれの団体が全国的に情報発信しており、市の認知度向上、子どもたちの学習環境などの PR につながっている。

連携先：地域の子育て支援団体、大学や博物館等、教育・研究機関や三田市にゆかりのある企業、陶芸家や歴史家、プログラマー等の NPO や専門家

■三田スモカモス・プロジェクト

市内にいる学生や若者が「三田に残る」「関わり続ける」、そして離れてもまた「戻ってくる」という選択肢を持つために、まちでの経験を増やす、地域活躍人材育成プログラム

連携先：(一社)イヒ(プロジェクトの企画運営)、他学生の活動体験受け入れ団体

【移住・定住アクションプログラム】

■オンライン移住相談会

移住促進を目的に市が任命した市民によるチームと連携し、オンライン移住相談会等を実施。関係人口の増加、移住(定住)促進を目的として、移住希望者に対する相談対応・情報発信等を通して移住希望者と地域をつなぐ役割を持つ。

連携先:さんだ住まいるチームメンバー

■三田市空き家バンク

市内の空き家を所有する者が物件を登録し、空き家の利用希望者にその情報を提供する制度。空き家の有効活用を通して、本市への定住促進及び地域の活性化を図ることを目的とする。

連携先:一般社団法人兵庫県宅地建物取引業協会三田・丹波支部

【ゼロカーボンシティの推進】

■ゼロカーボンシティアプリ実証実験

多様な脱炭素行動の周知と市民の行動変容を促す『ゼロカーボンシティアプリの導入』に向け、神戸大学大学院と共同開発したアプリを活用し、市民向けの実証実験等を行う。

連携先:神戸大学大学院

■三田市クールチョイスネットワーク会議との連携

定例的に会議を開催し、情報交換、情報共有を行いながら、三田市全体で地球温暖化問題への取り組みを進めている。

連携先:クールチョイスネットワーク賛同企業(8団体)

【新モビリティ活用の推進】

■中型自動運転バス実証実験

中型バスの自動運転化のLevel4を目指し、インフラ側からの自動運転車両への情報伝達、減速等の車両制御を含めた実験を行う。

連携先:神姫バス株式会社他、車両・インフラ支援システム各社

■グリーンスローモビリティ実証実験

移動に不安や不自由を感じている方々が外出しやすい移動サービスを検討するため、新しいモビリティを活用した実験を実施。

連携先:三田市モビリティサービス実証推進協議会

【その他】

三田市商工会、三田青年会議所、三田市観光協会、三田市区・自治会連合会、まちづくり協議会、三田市消費者協会、三田市社会福祉協議会、テクノパーク推進協議会、フラワータウン再生協議会等、市内の関係団体と連携することで、市民、事業者・団体等、行政がそれぞれの役割を担いながら総合計画に基づく施策を推進している。

2. 国内の自治体

兵庫県

本計画を推進するプロジェクト、千丈寺湖畔再生プロジェクトは兵庫県が2025年大阪・関西万博と一体的に実施する「ひょうごフィールドパビリオン(SDGs体験プログラム)」に参画している。同プロジェクトのエリア内に存する兵庫県施設の連携やイベントの協力開催等のほか、兵庫県のプロモーションのもと、各自治体と一体的に展開することで、関係・交流人口の増加、賑わいの創出、地域の活性化を図る。

阪神間各市町との連携

本市は、以前から阪神間7市1町(尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・猪名川町)と丹波篠山市・丹波市と広域行政を展開してきた経過から、普段から緊密な連携関係を有している。

また、阪神北地域4市1町(伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町)にある里山の一つひとつを展示物に見立て、多くの人が気軽に訪れ、それぞれの目的に合わせて活用できる”地域まるごと博物館”とする北摂里山博物館により、連携して里山の再生、保全、利活用に努めている。

三重県鳥羽市(防災相互支援、市民交流等)

本市は、三重県鳥羽市と友好都市として平成23年度から交流しており、歴史的に「海の九鬼、山の九鬼」として深い関わりがある。災害時応援協定を締結し、今後発生が予想される南海トラフ大地震等の災害時の支援関係を構築するほか、市民交流として小学校間交流や特産品販売等を行っている。

3. 海外の主体

本市は、オーストラリア連邦・ブルーマウンテンズ市、アメリカ合衆国キティタス郡、大韓民国・済州市と姉妹都市提携し、民間交流として青少年の相互派遣やホームステイを行う等、国際化時代に活躍する人材育成にも大きく寄与しており、SDGsについても今後双方の課題を共有し、協働推進の可能性を把握していく。

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

1. 千丈寺湖畔活性化プロジェクトで新たな人の流れを創出

先述したように、「ひと」、「まち」、「さと」が本市の魅力であり、且つ「まち」のすぐそばに「さと」があることが、住民や移住者にとっても大きな魅力となっている。

千丈寺湖は、都市と農村が隣接する結節点に位置しており、昭和63年青野ダムの建設により完成した人造湖で、三田の特徴である里山景観をはじめとした自然と、水辺を活かしたアウトドアが楽しめるエリアである。また、人口3万人代から11万人までの成長を飲み水・豊かな農産物を生み出す農業用水として支えてきた水がめでもあり、まさに本市の歴史や魅力を語る上では、象徴的なスポットと言える。

このような千丈寺湖を魅力あふれるエリアとして活性化し、暮らしのすぐそばに緑豊かな自然や里山がある景観を守っていくことで、本市ならではの魅力を未来につなぎ、活力のあるまち、持続可能なまちの象徴として、三田市全体のにぎわいと活力を生む千丈寺湖畔活性化プロジェクトを進める。エリアマネジメントの手法を活用し、持続可能な活性化を進めることで、千丈寺湖畔を本市のSDGsの発信拠点とする。

あわせて、兵庫県が2025年大阪・関西万博と一体的に実施する「ひょうごフィールドパビリオン(SDGs体験プログラム)」に「シン・センジョウジコ～里・水・風の恵みがもてなすアウトドア交流都市三田」として参画し、兵庫県のプロモーションのもと、国内外からの訪問者を受け入れるとともに、三田の魅力を発信し地域の活性化に繋げる。このプロジェクトの推進により、効果的に経済・社会・環境面の取り組みを進める。

【プロジェクトの主な取り組み】

①湖畔で学ぶ！「SDGs×学び・体験」の場を創出

・里山・水辺・芸術等の地域資源を活かした体験型プログラムを提供する。

②湖畔を満喫！「SDGs×憩い」の場を創出

・アウトドア施設の開設、地場産食材を活用したマルシェやレストラン等を通じ、つながりや交流の場を創出する。

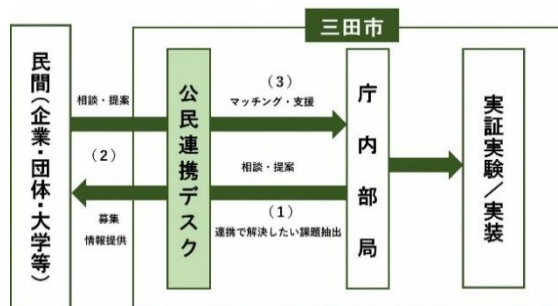
③湖畔から発信！「さんだSDGs」の普及展開

・エリアマネジメント組織を整備し、情報発信と共にSDGs・ゼロカーボンの達成に向けた新たな仕組みを展開する。

2. 公民連携の取り組み

公民連携デスクを設置し、公平性、公正性を確保しながら民間事業者等との対等なパートナーシップのもと互いの強みを活かしながら公民連携事業に取り組んでいる。

特徴：市が認識している課題の解決方法を民間事業者が提案



3. さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォーム

三田市をフィールドとしたプラットフォーム会員(民間企業や団体等)の主体的な活動により、課題解決を目指す。会員から課題解決の提案を受け実証実験の実施、実行、検証、改善と繰り返し社会実装を狙う。

特徴:民間主導のプロジェクト創出を支援するにあたり、市民目線での課題解決を目指すため官民共創を実践している。

4. わたしのSDGs宣言キャンペーンの実施

令和4年度から、まち全体で SDGs に取り組む機運を高めるため「わたしの SDGs 宣言キャンペーン」を実施。日々の生活の中にある SDGs に目を向け、一人一人が SDGs を意識した自ら実践したい取り組みを宣言し、実践した状況を市民はじめ広く共有することで SDGs に取り組む人を増やし、まちづくりの裾野を広げることを狙いとしている。

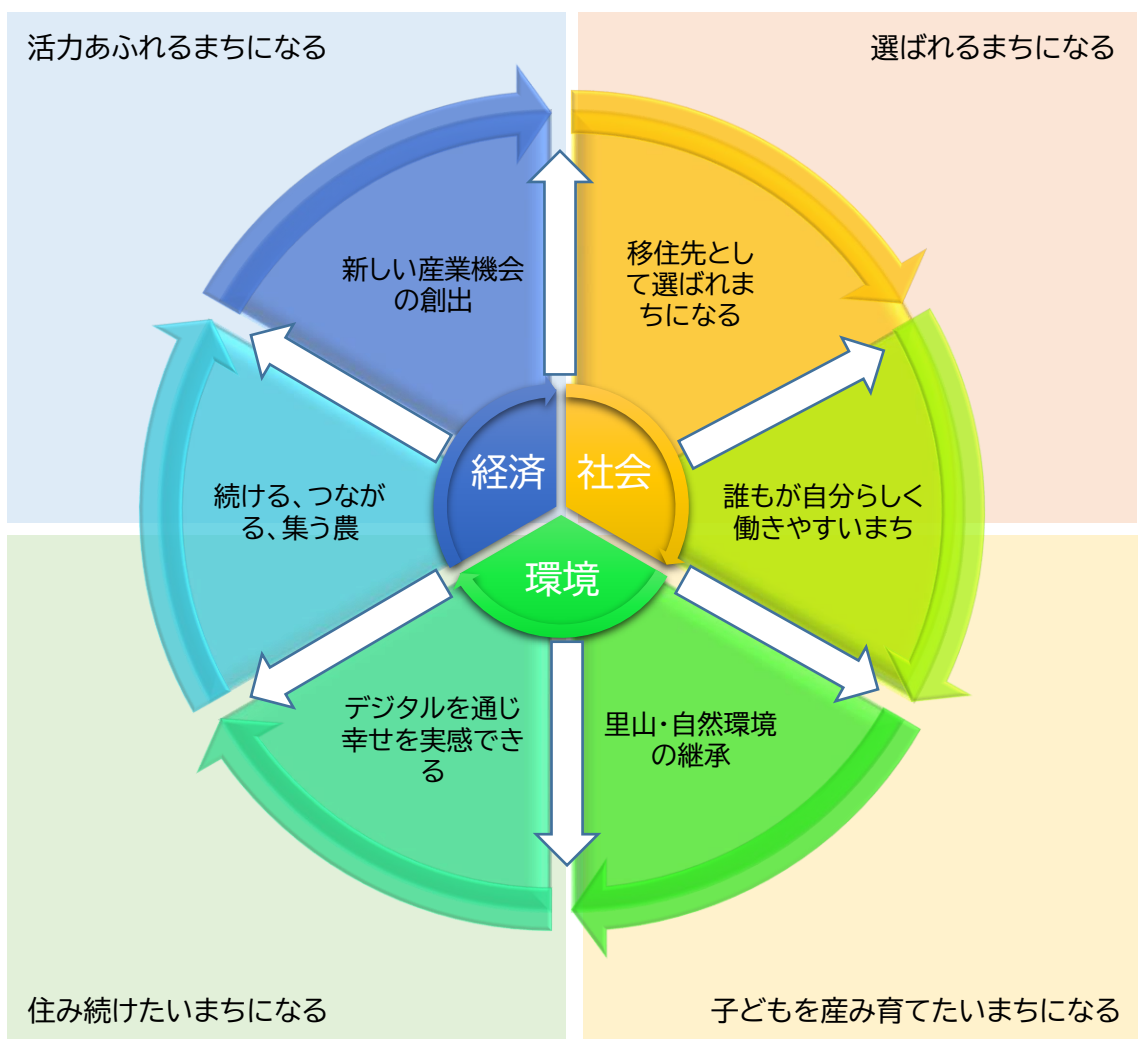
5. 活動認定制度「SDGs ファン・アクションさんだ」の創設を予定

グループ等で実施する SDGs に貢献する市内の活動を認定。活動を認定することで、制度への参入のハードルを下げ、活動の広がりを狙う。グループや団体、企業、学校活動として行う、楽しい活動、面白い活動を認定。市ホームページや広報誌で活動を紹介するとともに、認定を受けた団体も独自の媒体にて発信。楽しい活動を真似る団体やグループがさらに認定制度に参加することでまちを挙げて SDGs に取り組み、私たちのまちが、まわりの人がより良く、暮らせるように共に活動することを期待する。

1.4 地方創生・地域活性化への貢献

本計画に位置付ける各取り組みを実施することで、本市が抱える課題の解決を図り、地方創生、地域活性化を目指す。

これまでに記した取り組みをステークホルダーと連携して実施することで、各取り組みで検証した変化を生み、それぞれの取り組みは互いに影響しながら、社会課題の解決に向けた望ましい状態を生む。この望ましい状態が相乗効果により社会課題の解決へとつながり、本市の取り組むべき課題を実現する。



三田市SDGs未来都市計画